



MRL-IDM

MR-GM3/MR-GM3L

設定マニュアル

株式会社マイクロリサーチ

Rev 1.0

本マニュアルは MRL-IDM を使用するために、MR-GM3/MR-GM3L に
設定していただく項目のみを説明しています。

他の設定についてはオンラインでユーザーズマニュアルをご参照ください。

MR-GM3 ユーザーズマニュアル

https://www.mrl.co.jp/download/manual-online/gm3/MR-GM3_Usersmanualv9.0.pdf

MR-GM3L ユーザーズマニュアル

https://www.mrl.co.jp/download/manual-online/gm3l/MR-GM3L_Usersmanualv4.4.pdf

目次

内容

ルーター側のメール送信設定	1
WAN 側からの設定画面へのアクセス方法	4
ファームウェア自動更新設定	6
HTTP 死活監視設定	8

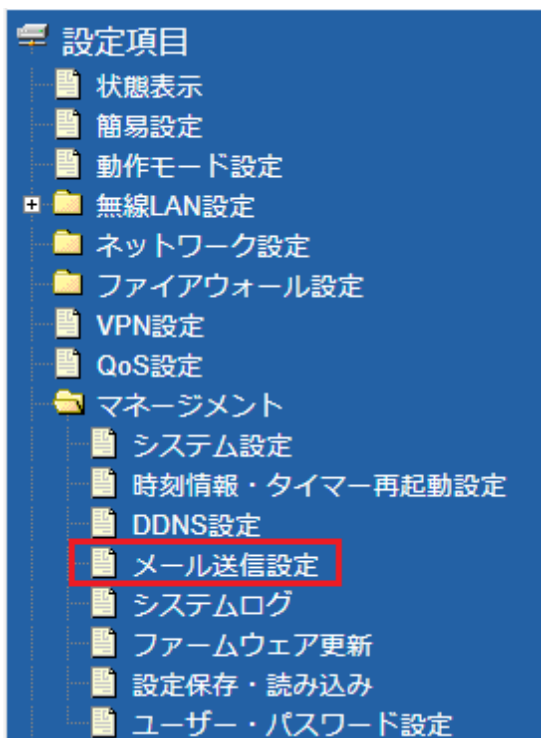
ルーター側のメール送信設定



メール送信機能を使用する場合、「NTP クライアント機能」を有効にする事を推奨します。
日時情報が合っていない状態でメールを送信すると、送信日時が不正なメールとしてメールサーバーに拒否されることがありますのでご注意ください

ステータスメールログに受信メール情報を表示させるにはルーターの「メール送信設定」、MRL-IDM のデバイス管理でアラート通知の有効化、監視・アラート管理内、「ステータスアラート条件設定」「ステータスメールログ設定」が必要になります

設定メニューの「マネジメント」より「メール送信設定」をクリックしてください



メール送信設定

メール送信設定を行います。

- ☒ メール送信機能を有効にする
 - メール送信サーバー
 - メール送信サーバーポート番号
 - 送信元メールアドレス
 - 宛先メールアドレス
 - 接続保護

「メール送信設定」画面が開きます

メール送信設定

メール送信設定を行います。

☒ メール送信機能を有効にする

メール送信サーバー
メール送信サーバーポート番号
送信元メールアドレス
宛先メールアドレス
接続保護

(1~65535)

 ▼
☐ StartTLS(RFC 3207) 拡張をしない
 ▼

☐ メール送信グリーティングメッセージ(EHLO)に送信元メールアドレスのドメインを使用する

☒ WANインターフェース有効時のメール送信を有効にする

☒ 定期メール送信を有効にする

送信間隔

時 分 秒 (0~24時間)

☐ 時刻指定メール送信を有効にする

メール送信スケジュール

☐ 毎日
☐ 日曜 ☐ 月曜 ☐ 火曜 ☐ 水曜 ☐ 木曜 ☐ 金曜 ☐ 土曜

メール送信実施時刻

時 分

☐ 装置起動時のメール送信を有効にする

☐ プロセス再起動時のメール送信を有効にする

☐ 有線LANのLinkUP/LinkDOWNによるメール送信を有効にする

メール送信テストを行う

設定保存

- メール送信機能を有効にする（チェックボックス）にチェックを入れてください
 - メール送信サーバー：**mail.mrlidm.jp**
 - メール送信サーバーポート番号：**587**
 - 送信元メールアドレス：**MRL-IDM より通達された送信元メールアドレスをここに入力してください**
 - 宛先メールアドレス：**MRL-IDM より通達された宛先メールアドレスを入力してください**（別途宛先を追加する場合は、で区切って入力してください）
 - 接続保護：**なし**
 - 認証方法：**平文**
 - ユーザー名、パスワード：**MRL-IDM より通達されたユーザー名、パスワードを入力してください**
 - 定期メール送信機能を有効にする（チェックボックス）
 - 死活監視にメールを利用、もしくはステータスメールログ機能を使用する場合は設定を行ってください。
 - 送信間隔にメール送信間隔を入力してください。
 - * 送信間隔はステータスメールログ取り込み、死活監視間隔アラート設定時間より短くしてください。
 - * 0 時 0 分の場合、メール送信は行われません。
- すべての設定が終わりましたら、[設定保存] ボタンをクリックしてください。
- 再起動を行うと設定が反映されます。

WAN 側からの設定画面へのアクセス方法

WAN 側から設定画面へのログインを行う場合の設定方法について説明します。

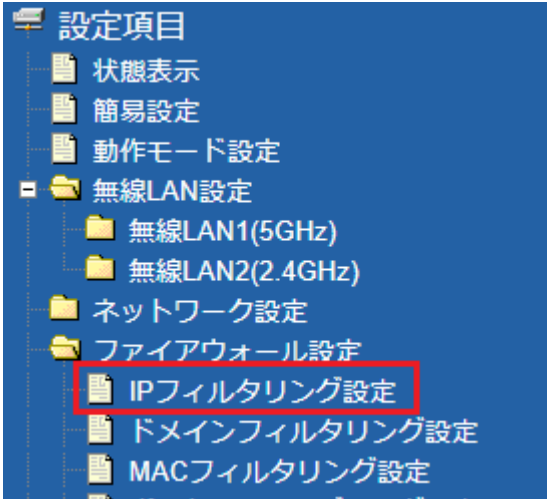


インターネット上からの設定画面へアクセスを行う場合には、グローバル IP アドレスである必要があります。

※「WAN 側から設定画面へのログインを許可する」設定にする場合、必ずユーザー名、パスワードを変更してください。詳しくはユーザーズマニュアルを参考にしてください

設定メニューの「ファイアウォール設定」より「IP フィルタリング設定」をクリックしてください。

「IP フィルタリング設定」画面が開きます。



設定項目

- 状態表示
- 簡易設定
- 動作モード設定
- 無線LAN設定
 - 無線LAN1(5GHz)
 - 無線LAN2(2.4GHz)
- ネットワーク設定
- ファイアウォール設定
 - IPフィルタリング設定**
 - ドメインフィルタリング設定
 - MACフィルタリング設定

IPフィルタリング設定

送信元のIPアドレス/サブネットマスク/ポートアドレス/サブネットマスク/ポート番号/通信の透過/遮断の設定を行います。

☐ IPフィルタリング機能を有効にする

送信元IPアドレス/マスク

「IP フィルタリング機能を有効にする」にチェックを入れ、以下のテーブルを追加してください。

☒ IPフィルタリング機能を有効にする

送信元IPアドレス/マスク / (1~32)

宛先IPアドレス/マスク / (1~32)

プロトコル

TCP ▼

送信元ポート - (0~65535)

宛先ポート

80 - 80

 (0~65535)

送信元インターフェース

WAN ▼

宛先インターフェース

自機 ▼

フィルタ動作

透過 ▼

コメント (半角英数字20文字以内)

リストへ登録・設定保存

■送信元 IP アドレス/マスク

特定の IP アドレスからのみ設定画面へのログインを許可する場合、対象の IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。

指定しない場合は空欄にしてください。

■宛先 IP アドレス/マスク

空欄にしてください。

■プロトコル

「TCP」を選択してください。

■送信元ポート

空欄にしてください。

■宛先ポート

「80」を入力してください。（デフォルト時）

ポート番号はマネージメント内・システム設定で変更可能です。

※10080 はブラウザのセキュリティの問題で使用できないため設定しないでください。

■送信元インターフェース

「WAN」を選択してください。

■宛先インターフェース

「自機」を選択してください。

■フィルタ動作

「透過」を選択してください。

設定が終わりましたら、[リストへ登録・設定保存]ボタンをクリックしてください。

IP フィルタリング登録リストに登録されます。

IPフィルタリング 登録リスト (64エントリまで登録可能)

送信元IP/マスク	宛先IP/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
any	any	TCP	any	80 - 80	WAN	自機	透過		<input type="checkbox"/>
選択したエントリを編集		選択したエントリを一つ上げる		選択したエントリを一つ下げる					
選択したエントリを削除		全て削除							

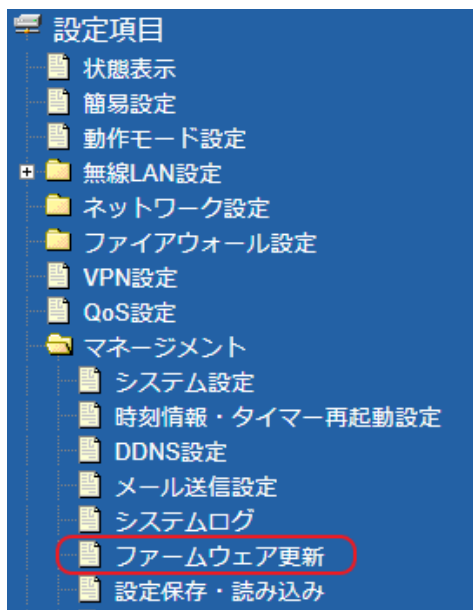
登録が完了すると、WAN 側から設定画面にログインする事が可能になります。

ファームウェア自動更新設定

※「タイマー自動ファームウェア更新機能」は、「NTP クライアント機能」による時刻取得が行われないと正常に動作しません。

「NTP クライアント機能」についてはユーザズマニュアル「9-2.時刻情報・タイマー再起動設定」（149 ページ）を参照してください。

設定メニューの「マネージメント」より「ファームウェア更新」をクリックしてください。



ファームウェア更新

ファームウェアの更新を行います。

注意事項

- ファームウェア更新中は、本機の電源を切ったりク
- ファームウェア更新作業は必ず有線LAN経由で行っ
- ファームウェア更新を行うパソコンと本機を1対17
- （本機に接続されている他のネットワーク機器は、
- ファームウェア更新後、ダウンロードした設定ファ
- 必ず読み込んでください。

「ファームウェア更新」画面が開きます。

手動ファームウェア更新画面の下にタイマー自動ファームウェア更新機能の設定画面があります。

☒ タイマー自動ファームウェア更新機能を有効にする

ファームウェアダウンロードURL

スケジュール

☐ 毎日
☐ 日曜 ☐ 月曜 ☐ 火曜 ☐ 水曜 ☐ 木曜 ☐ 金曜 ☐ 土曜

更新実施時刻 時 分
(0~23) (0~59)

「タイマー自動ファームウェア更新機能を有効にする」にチェックを入れてください。

MRL-IDM の「ファームウェア更新」メニュー内、該当機種用ファームウェア更新 URL をコピーして MR-GM3 の「ファームウェアダウンロード URL」にペーストしてください。

* 事前に MRL-IDM 内にてファームウェア更新設定を行う必要がございます。

■スケジュール

ファームウェア更新確認を行うスケジュールを設定します。

*** スケジュールを設定しないとファームウェア自動更新は行われません**

すべての設定が終わりましたら、「設定保存」ボタンをクリックしてください。
再起動を行うと設定が反映されます。

HTTP 死活監視設定

HTTP による死活監視アラート設定を使用する場合に設定を行ってください。

設定メニューの「ネットワーク設定」内「WAN 設定」をクリックしてください。



WAN 設定画面が開きます。

画面下部に回線監視機能の設定画面があります。

回線監視機能	HTTPによる監視▼
発行間隔	15分▼
連続失敗検出回数	8 (1~60)
<input type="checkbox"/> 回線監視通信の送信元にLAN側IPアドレスを使用する	
宛先1	https://mrlidm.jp
宛先2	8.8.8.8
宛先3	
設定保存	

回線監視機能のプルダウンメニューで「HTTP による監視」を選択してください

■発行間隔

HTTP による監視：(1/5/10/15/30/45/60 分)

MRL-IDM で設定した監視間隔より短く設定してください（例：MRL-IDM の死活監視間隔 30 分の場合、MR-GM3 側は 15 分より短くする）。

■宛先 1 ～ 3

宛先 1 に MRL-IDM の「監視・アラート管理」内「HTTP 監視 URL 設定」登録時発行の URL を入力してください。

宛先 1 だけ設定した場合、MRL-IDM がメンテナンス等で応答しない場合にデバイスがネット接続出来ていないと判断して再起動することがありますので、最低でも宛先 2 にも他の URL を入力してください。

すべての設定が終わりましたら、「設定保存」ボタンをクリックしてください。

再起動を行うと設定が反映されます。